

【種別】

魔術

【初出】

十四卷

【解説】

テッラが用いる、物の「優先順位」「強弱」を変更する魔術。
神話において「神の子」が「ただの人間」に殺された、
つまり「本来の順位」が逆転してしまったことを再現しているらしい。

小麦粉をメイン武器に用いるのは、『十字架を使った「神の子」の処刑』を模したミサにおいて、
葡萄酒が『神の血』、小麦粉が『神の肉』の代替物であるため。
小麦粉のギロチン（任意変形）はこの術式の副産物として生成されるものである。

「相手の攻撃」を「自身」より「下」にすればどんな攻撃でも完全防御できるし、
「小麦粉のギロチン」を「的」より「上位」に設定すればどんなものでも切断できる。
単純な攻撃や防御だけでなく、
自身を壁より優先して壁抜けしたり、空気を敵の武器よりも「上位」に設定して敵の攻撃を止めるといった応用もできる。

だが、どうしても未調整だったらしく、近距離から放たないと刃の精度が落ちたり、
一つの『優先』から別の『優先』に切り替えるには再設定が必要、という欠陥がある。
つまり一度に複数の対象を取ることはできず、故に攻撃と防御を同時に行うことはできないし、
複数種類の攻撃を防ぐこともできず、複数のものを同時に切断することもできない。
が、多少の融通は利くようで、
服は相手の一部としてカウントされるし、「魔術」といった大雑把な括りでも有効。

「優先する」

「優先する。 外壁を上位に、人体を下位に」
